



SiEN

秋号



「そう10年目を迎えて」

特定非営利活動法人 SIEN 理事長 石川 誓子

ようやく涼しい風が時折吹くようになってきました。今年の夏は本当に暑かったですね。東京は35度以上の猛暑日が16日もあり、年間猛暑日数が史上最多だったそうです。

さて、そんな記録的な年になった今年、当法人の生活訓練センターそうが設立10年目を迎えました。法人を立ち上げて、4年目にできた5つめの事業所です。

当時は地域活動支援センター、居宅介護事業所、訪問看護ステーション、相談支援事業所を運営していました。もともと精神科の病院に勤務していた私は、地域でどんなサービスがあると障害が重くとも孤立せずに安定・安心して生活ができるかを考えていました。

そして、相談と居場所の提供を行う地域活動支援センター、生活の支援を行う居宅介護、医療のサポートをする訪問看護をつくりました。

しかし、しばらくすると、相談に来られる方のなかに、状態が安定していても、なかなか次のステップにつながらない人たちの存在が見えてきました。より丁寧に、細やかに行う「つなぐ支援」の必要性を感じました。

そんなとき、ある研修で生活訓練という訪問と通所の両方を兼ねられるサービスがあることを知りました。制度上、本人の希望がないと成り立たないサービスですが、自宅に訪問しながら関係性を築き、同じスタッフがいる事業所に通所できる仕組みは、丁寧に細やかな「つなぐ支援」ができるように感じました。そして、この事業は、私がこの地域で課題に感じていたことに少なからず貢献できるのではないかと思います、生活訓練センターそうを立ち上げました。

個別性の高い支援を行っていたので、当初は何をするサービスなのか、理解していただくのに時間がかかったように思います。少しずつ事業が認知され、3年目くらいから、長く引きこもっていた方たちが社会に居るためのサポートを行える事業として位置づけられるようになってきました。また年数を重ねるうちに、様々な要因により通所と訪問のニーズも変化し、それに応じて支援のあり方も少しずつ見直しを行い、現在にいたっています。「引きこもり」という状況や「〇〇病」という診断名は同じだったとしても、その背景にあるものは一人一人異なります。また、夢や希望も一人一人違います。今後も、その違いに向き合い、今するべき支援を丁寧に細やかに行っていきたいと思っています。